

(1) 更生案実施に際して断然罷業に依る防衛闘争を敢行し得なかつたこと
 (2) 百三十七名誠首取消闘争の結果が大衆の輿望に反したること
 の二つの理由を以て引責辞職を表明したる爲に新に執行委員選出の
 必要に迫られたる開催せられたものであつた。
 大会は三月月に巨内た争議の経過報告その批判及び主目的たる役
 員の改選を行つたのであつたが改選の結果は觀るに、大会迄即ち
 争議中の本部員の大半が所謂左翼分子に依つて占られて居たと傳へ
 られたるに反し、新役員の大部は過去久しき経歴を有する市電労働運
 動の首腦的地位に在りて所謂幹部級の一群即ち篠田八十八、目黒
 吉、熊本利男、山下卯三郎、田中房雄、小池孝治、内田昌平等に依
 つて掌握せられたるものである。
 然らば何故に市電労働運動に於ける幹部であり、所謂防衛闘争であつ
 たに飛らの者が三月月の大争議に際して複雑極まる対局闘争好轉の
 爲に本部に籠つて一万二千従業員に指令せつゝ、対局交渉の任に當ら
 なかつたか。當局更生案発表期日の切迫を知り乍ら敢て年次大会
 を十月廿日開催して、闘争場裡に經驗淺き新人左翼闘士を選んて本

部の牙城に送り、自らはその表面的責任から逃避したのであらうか？
 顧みれば昭和七年一月十三日廣尾電車庫に突発した罷業が、左
 翼分子の組合幹部への対抗であり、組合乗取りの策戦であつたこと
 を経験した彼等本部員は、自らの勢力が近來とみに没落しつつある
 期ではあり、これら市電内部に於ける左翼勢力を壊滅へ導く爲には
 何れ従業員側の勝利は期待し得べくもない更生案発表を契機とし
 ての闘争の frontline に送つて、争議惨敗の責を彼等に負擔せしめ、その
 無力を大衆の前に暴露する事を以て、勢力挽回の策なりとして暗躍
 した結果が、即ち年次大会の役員選挙及十二月臨時大会に於ける所
 謂幹部の再登場に露はれたのである。
 斯様に於て當時に於ける組合内部の策動の相を観るとき、既に東
 交混乱の因はその一面に胚胎してゐたと言ふべく、所謂穩健派
 幹部のこの策謀は争議解決後の事実を照し、その大半は達成せられ
 前記の如く彼等は再び本部指導権を獲得したのであるが、従業員
 の一部は流れつゝあつた旧勢力に対する反感は未だ一掃されたと
 は思はれなかつた。